



国臨協関信

HPアドレス <http://kanshinshibu.org>

平成27年4月

事務局 〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部門内
発行者 峰岸正明
編集委員 金子 司・瀬下明子・山崎直樹
印刷所 東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

第69回 国立病院総合医学会

The 69th Annual Meeting of Japanese Society of National Medical Services

2015年10月2日(金)～3日(土)

会場 ロイトン札幌

会長 菊地 誠志
独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター院長

副会長 近藤 啓史
独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター院長

地域でつくる明日の医療

～まいにちから、まんいちまで～

国臨協関信支部定期総会・関信支部主催研修会・合同交流会の日程

第43回国臨協関信支部定期総会・関信支部主催研修会

日時：平成27年4月18日（土） 12:30～15:30

場所：国立国際医療研究センター 国際医療協力局5階大会議室

12:30～13:00 受付

13:00～14:00 第43回国臨協関信支部定期総会

14:00～14:15 休憩

14:15～15:15 研修会

「検体検査の基礎…精度管理～試薬性能評価等について」

国立長寿医療研究センター 臨床検査部

川口 祐二 臨床検査技師長

15:15～17:00 アルカディア市ヶ谷へ

独立行政法人
国立国際医療研究センター
NCGM National Center for Global Health and Medicine



↓ アルカディア市ヶ谷へ移動



平成26年度退職会員を囲む合同交流会

日時：平成27年4月18日（土） 16:30～19:00

場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）3階 富士

16:30～17:00 受付

17:00～19:00 平成26年度退職会員を囲む合同交流会

国臨協関信支部
定期総会開催に
あたり（お願い）

出席予定の会員の方へ・総会議案書を必ずご持参下さい。

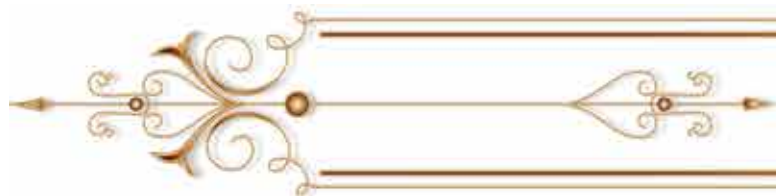
欠席される会員の方へ・委任状は出席する貴施設の代表者にお預け下さい。

施設連絡責任者の方へ・委任状は貴施設で取りまとめ、代表者が当日、受付に提出して下さい。

・貴施設に出席会員がいない場合は、取りまとめ下記まで郵送（施設負担）願います。

※4月13日必着

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1 独立行政法人 国立国際医療研究センター病院 中央検査部内 国臨協関信支部事務局 宛



退 職 に



NHO東京病院
浅 里 功

昭和52年、国立王子病院の院長室、不安と緊張、漠然とした希望、そんな辞令交付から38年間、6施設での公務員生活がスタートしました。当時の

王子病院は技師数10人と小さな所帯でしたが、アットホームで仕事以外にも野球、テニス、海水浴などの旅行が懐かしく思い出されます。

栃木病院では副技師長として3人の“個性派技師長”に仕えました。初めての副技師長業務は全てが新鮮で遣り甲斐があり、単身赴任も楽しく充実した3年間で。失敗（失策）も多々ありましたが温かく見守り、ご指導頂いた先輩技師長に心より御礼申し上げます。

平成20年には、国立でしか経験できないハンセン病療養所の栗生楽泉園に赴任しました。強制収容は、ハンセン病が恐ろしい伝染病であり地域社会に脅威をもたらす危険な存在であるとの誤った認識を国民に根付かせてしまい差別へと繋がりました。しかし、AIDS、新型インフルエンザ、現在のエボラ出血熱と過去を省みず同じことを繰り返しているように感じています。

相模原病院では3.11を経験しました。4回の計画停電、間引き電車、試薬不足など不安と緊張の日々でしたが、病院職員が一体となり、まさに“絆”をもって対応するなど人間の底力を痛感しました。最後は幸運なことにかねてから希望していた東京病院で定年を迎えることとなりましたが、常にご支援頂いた科長を始めスタッフ一同に心から感謝いたします。

「定年し 行事予定は 診察日」とならないよう、これからも健康で何事に対してもさらに“前向き”に取り組みたいと思っています。

関信支部では平成24年の第40回関信支部記念学会において学会長を務めたことが一番の思い出ですが、関信支部の発展と皆様のご多幸を祈念して退職のご挨拶いたします。ありがとうございました。



NHOまつもと医療センター松本病院
菊 池 寿美子

このたび定年を迎えることとなりました。これまでに会った多くの方々からご指導やご支援をいただき、職務を全うできますことに感謝を申し上げます。

ます。

今年1月中旬、当院はインフルエンザ集団発生で世間をお騒がせしていました。ちょうどその頃、峰岸支部長から原稿依頼のご連絡をいただき、改めて“そうだ、この3月で定年退職！”と、じわりと実感が湧いたことを覚えています。現在、手元には退職に関わる種々の書類が届いております。また、昨日開催した臨床検査科運営委員会では、最後に検査科長より「技師長は3月で定年ですから挨拶を」と促されました。「退職の日」は刻々と近づいているのですね…そうそう、技師長室で毎月めくるカレンダーも次は3月となっています！

振り返りますと、昭和53年2月国立がんセンター（現、国立がん研究センター中央病院）が私の臨床検査技師のスタートでした。“いのち”と正面から向き合うよう育ててくれた原点です。その後、主任として相模原病院（H9.4～）、小児病院（H13.11～）、成育医療センター（現、成育医療研究センター、H14.3～）、副技師長として村山医療センター（H20.4～）、技師長としてまつもと医療センター（H23.4～）に勤務しています。その間、国臨協本部役員として約10年間務めさせていただき、会務を通じて多くの方々と過ごした時間は日常の検査業務では得られない多くの学びがありました。最後になりましたが、国臨協の発展と会員の皆様のご活躍をこころよりお祈りしています。長いようで短かった！37年間でしたが、ありがとうございました。



よ せ て



NHO東京医療センター
小 松 和 典

昭和53年3月に現在の国際医療研究センター戸山病院で採用の辞令をいただいてから、37年と1ヶ月の国立病院での検査技師生活に、この春、区切りをつけることとなりました。この間に千葉東病院、まつもと医療中信松本病院、千葉医療センター、横浜医療センター、信州上田医療センター、東京病院、そして東京医療センターと8施設にお世話になりました。単身赴任や遠距離通勤もありました。統合直後の施設や赤字に苦しむ施設、立替準備施設などすべての施設で課題満載でしたが、検査科や事務の方など院内の仲間と、時には地域の皆さんと一緒に取り組んできたことに、苦しく大変だったことすら今は良い思い出となっています。

また、厚生労働省や国立病院機構本部の業務では、臨床検査の本質に真っ向から向き合う貴重な経験をし、医療の中では脇役とはいえ、臨床検査がすばらしいキャストで、重要な役割を担っていることを再確認できました。しかしながらその役割は、今では常に変化を求められるために、医療のニーズに合わせていく目利きと努力が必要なこと、それができる人材の育成と活用も含め、多くのことを学ばせていただきました。

社会情勢や疾病構造が大きく変化を遂げていく中で、昨日までと同じことを明日も、と考えてはなりません。未来は誰にもありますが、輝かしい未来は自然に発生するものではなく、自分の「この手」で創るものだとこの歳になって初めて理解した気がします。

今私は、好みの美味しい酒をグラスに注ぎ、皆さんのこれからに想いを巡らせながらこの原稿を書いております。国臨協関信支部の検査技師の皆さんはもとより、全国の検査技師の皆さんが、これからも毎日楽しく仕事ができることを心から祈りつつ、応援をしていきたいと思っております。

これまでのお付き合いに改めて衷心より感謝を申し上げ、これをもって最後の筆とさせていただきます。



NHO横浜医療センター
吉 田 和 浩

毎年この時期になると、先輩方の「退職によせて」を読ませていただきましたが、いよいよ自分の番が回ってきてしまいました。数年前まではまだ遠い先のことのように思っておりましたが、自分が書かせていただく立場となり万感胸に迫るものがあります。

最初に採用となった国立水戸病院から横浜医療センターまで35年の間に7施設で合計7回の転勤をいたしました。どの施設においてもよき指導者、上司、同僚に恵まれて充実した技師人生を送ることができました。

私が採用された頃は、昭和の後半で高度経済成長期は終わったものの依然として好景気が続き、それでいて職場環境は現在と比べ規制や縛りも緩く、病院内も職場内も和気あいあいとしていました。臨床検査も必要度が高まる一方で、試薬メーカー・機器メーカーからは次々と新規項目や新機種を発表され、華やかなイベントがたびたび開催されたと記憶しております。まさに昭和の「古き良き時代」でした。しかし、現在がどうなのかと問われれば、今は今で施設ごとの差こそあれ関信支部主催の学会・研修会などのイベントに参加している会員を見ると、活気に溢れ、目は輝き、頼もしさを感じます。これは関信支部役員の日頃からの努力によるところが大きいと思われますが…

機構職員は4月より身分が非公務員となります。歴史を遡ると国立病院はこれまでに幾多の変革の時期を経て現在に至ってきました。施設の移譲や統廃合そして独法化など、その都度難局を乗り越えて現在に至ったわけです。検査部門においても同様であり、診療報酬点数の減額やアウトソーシング等様々な問題に直面して乗り越えてきました。

これからも、様々なハードルが待ち受けていることと思いますが、国臨協の力をもってすれば必ず乗り越えられると信じております。

私はまもなく定年を迎えますが、これまでにお世話になった多くの皆様との出会いに感謝し、第二の人生を歩みたいと考えております。

長い間お世話になり、ありがとうございました。

平成26年度国臨協関信支部地区代表者会議議事録（要旨）

日 時：平成27年1月17日(土)13:00～16:50 場 所：国立がん研究センター中央病院6F臨床検査部 カンファレンスルーム

出席者

国臨協関信支部役員

峰岸、岩崎（司会）、金子、後藤、荘司、瀬下、瀬戸、寺戸、山崎、浅里（顧問）、長井（書記）、平原（書記）、野田（臨床検査専門職）

各地区会代表者

青木（茨城地区会）、鈴木（栃木地区会）、大川（群馬地区会）、日吾（埼玉地区会）、吉川（千葉地区会）、内野（東京地区会）、南雲（東京・山梨地区会）、小川（神奈川地区会）、水島（新潟地区会）、山崎（長野地区会）

ルーチンアドバイザー

渡辺（RA 委員長）

（敬称略）

1. 開会の挨拶（岩崎副支部長）

2. 支部長挨拶

本日はお忙しい中、ご出席ありがとうございます。今年は非公務員化、法改正による検体採取の業務拡大、認定臨床微生物検査技師手当等、自分達の仕事環境が大きく変わる時であり、その中で地区会会長の皆様から意見をお聞きし今後の支部活動に反映していきたいと思います。

3. 平成 26 年度支部役員・地区会代表者自己紹介

4. 関信支部経過報告

1) 事務局

本年度総会員数は前年度より 24 名増の 577 名、特に国立国際医療研究センター病院等の新規会員が増加した。また、今年度は国立病院総合医学会担当支部となり、総合医学会諸会議関連の準備、運営を行った。

2) 学術部

国臨協関信支部主催研修会を 4 回開催し、地区会共催による研修会は埼玉地区会と行った。第 42 回国臨協関信支部学会では、初めての試みとして部門分科会を開催した。今後の予定は症例検討会（呈示施設：NHO 千葉東病院）を予定している。

3) 広報部

国臨協関信支部ニュースを平成 27 年 1 月までに 3 回発行した。国臨協関信支部定期総会、国臨協関信支部主催研修会、国臨協関信支部学会、国立病院総合医学会など支部活動関連記事と共に、地区会だより、国立病院機構関東信越グループ研修会などの情報を掲載した。

5. 各地区会経過報告

各地区会代表者より組織状況、会議（理事会・総会）、学術（研修会）、広報（会報誌発行等）、文化活動（レクリエーション等）の報告があった。

6. 各地区会提出議題（一部抜粋）・関信支部提出議題

1) 地区会提出議題

(1) 茨城地区会

① 認定資格手当の拡充について

・認定臨床微生物検査技師の手当は、国臨協本部、技師長協議会、専門職が長年、要望していたことが実現した。関信支部としては今後も関連協議会と足並みを揃え要望活動を行う。

② 組織活性化及び人材育成のためにより一層の人事交流について

・人事交流に関して関信支部が取り組めることは、ビアパーティーや合同交流会などで会員相互の交流の場を設けることと考えている。

(2) 栃木地区会

① 検体採取講習会を関信支部研修会で行う

・日臨技が主催する講習会は厚労省の指定講習会となっているので、同様の研修会を関信支部が開催することは困難である。関信支部としては日臨技講習会を受講後、研修内容を補足する形の研修会であれば開催が可能である。

(3) 群馬地区会

① 臨床検査技師の育成について（茨城地区会②で討議）

② 各種研修会の開催について（神奈川地区会⑥で討議）

③ ビアパーティーの開催場所について ～ 150 名規模に相当する会場の設定をお願いしたい。～

・若い技師が気軽に参加できるように、参加費も安く低予算で開催可能な会場を考えている。新宿中心でパーティー会場のような所を探しているの、要望に合うお店をご存じの方がいれば情報提供をお願いしたい。

(4) 埼玉地区会

① 女性技師のキャリアアップについて ～女性リーダーの育成やボトムアップ方法の検討が必要～

・研修会講師に女性で実際に活躍している技師長、副技師長、育児をしながら働いている主任技師、または看護師の方を招き、講演していただくような内容で研修会を企画することも方策と考えている。

② 定年退職における再任用について ～非公務員化をふまえ、再任用における勤務状況の現状把握が必要～

・昨年度は国臨協本部に調査を依頼し把握できた。引き続き今年度も調査の継続を国臨協本部に依頼する。

③ 主任臨床検査技師の育成の重要性について ～主任臨床検査技師のスキルアップを兼ねた研修会の開催（神奈川地区会⑥で討議）～

④ 地区会数増加に伴う地区会同士での勉強会の共同開催の実現について（神奈川地区会⑥で討議）

(5) 千葉地区会

① 支部主催研修会の見直しについて（神奈川地区会⑥で討議）

② RA 制度について（RA 委員の現状と課題で討議）

③ 地区会のあり方について（神奈川地区会⑦で討議）

(6) 東京地区会

① NC と NHO 職員の処遇の違いなどについての情報提供について

・非公務員化に伴う情報は支部としても入手できていないので、情報が入り次第提供していく。

② 国臨協としての定年退職者の積極的な雇用対策について

・関連協議会と調整して対応を考えたい。

③ 関信支部勉強会スケジュールの見直し、講義時間配分の見直し等について（神奈川地区会⑥で討議）

(7) 東京・山梨地区会

① 関信支部会員になっていない非常勤職員や再任用職員の地区会への参加対応について

・非常勤職員や再任用職員が関信支部会員でなくとも地区会に入会しているのであれば出席可能である。

(8) 神奈川地区会

① 検体採取に向けた具体的取り組みについて（栃木地区会①で討議）

② 検査説明・相談コーナー（室）に関する取り組み

について

- ・国臨協本部事業のひとつであり、支部としてはサポートする形の対応を考えている。一例を示すと積極的に取り組んでいる施設の現状等を支部ニュースに掲載することや、研修会としてロールプレイングのような企画も考えたい。

③認定技師手当の支援拡大について（茨城地区会①で討議）

④ ICT 担当検査技師の情報交換について

- ・ICT 活動に積極的に取り組んでいる施設や、国立病院の細菌検査を考える会、RA 等の協力を得ながら、ICT 活動の情報を支部から配信したい。

⑤輸血検査、生理検査（超音波）だけではなく各部門の研修会を企画してもらいたい（⑥で討議）

⑥任用 5 年、10 年などの技師対象の研修会・講習会を企画してもらいたい

- ・ここで研修会についての議題を一括して討議する。
- ・関信支部では年間を通して年間 4 ～ 5 回の研修会を開催している。今年度の 4 月は新規採用職員向け、12 月は認定超音波検査士の認定試験対策を開催した。
- ・各地区会から、検体検査（精度管理）、細菌・病理、中堅技師や女性技師対象の研修会の要望を頂いているが、研修会内容については、優先順位を考慮し、偏りのないような形で、年間通して研修会を企画していきたいと考える。
- ・7 月に中堅技師対象の研修会を行ったが、中堅技師と思われる主任技師の出席者は 38 名であった。研修会に出席するといった主任技師の意識の向上が必要と考える。
- ・研修会開催日は土曜日だけでなく、祝日も考えている。

⑦地区会に対する助成金について

- ・ここで地区会についての議題を一括して討議する。
- ・助成金の経緯は、東京近郊で支部活動を行うことが多く、地方では研修会などの開催ができないことで遠方の会員への公平性が欠けていた。そこで地区活動に少しでも役立つようにと助成金をはじめた。ただ、地方のみとなると公平性に欠けるので、全地区一律同額とした。
- ・助成金は今後も継続していく。
- ・助成金の用途は、各地区の判断に委ねるが地区会総会の会計報告で判るようにして欲しい。
- ・研修会に関しては、地区会同士で開催しても構わない。開催費用が高額である場合は、その何割かを補助することも考慮する。
- ・今年度から 10 地区になったが、このままの体制で継続していくことを希望する。今後は地区会員の意識をアンケート等で調査していきたいと考える。

⑧非公務員化について現状把握と最新情報の随時提供について

- ・支部としては情報を入手していないので、情報が入り次第提供をしていく。

(9) 新潟地区会

①関信支部ホームページを活用した「e-ラーニング」の構築について

- ・支部の HP を作成しているソフトで e-ラーニングを構築するのは可能だが、実現には HP 担当理事のスキルに負うところが大きい。また、講義内容の作成を誰に依頼するか、個人情報、著作権、責任の所在などクリアしなければならない問題が多い。HP には RA の Q&A や、研修会の資料等、学術的な内容を掲載する事を検討していきたい。

(10) 長野地区会

①国臨協関信支部学会の座長二人制について

- ・今学会の座長二人制は、経験豊富な座長による若い座長の育成といった目的もあったが、情報提供不足であった。また、演題の内容に合わせて座長二人制をフレキシブルに対応すれば良かったと反省している。

2) 関信支部提出議題

①関信支部主催研修会の共催について

- ・研修会の地区会との共催について、今年度は埼玉地区会と共催を行ったが次年度についても継続する。共催していない地区会は、茨城、東京、東京・山梨、新潟であるが、当該地区の事情もあるので、各地区会会長と相談しながら検討したい。

②年度の統一について

- ・現在、関信支部および群馬・神奈川以外の地区会は平成 26 年度として会務を行っているが群馬・神奈川地区会は平成 27 年度で事業を行っている。全地区の年度を平成 26 年度に統一をお願いしたい。

③定期総会・研修会・合同交流会の開催場所

- ・今年度はアルカディア市ヶ谷で定期総会・研修会・合同交流会を開催したが、定期総会・研修会の会場が狭いと意見があった。定期総会・研修会を国立国際医療研究センター病院、合同交流会をアルカディア市ヶ谷で行うことを検討している。各地区会会長の意見を参考にしながら再考する。

7. RA 委員の現状と課題

委員長の役割が明確ではなく、学術的情報の提供が滞っている。次年度は委員会を開き、RA の活性化を図りたい。

8. その他

①会計監査交代のお知らせ

- ・竹下前技師長の退職に伴い、会計監査が霞ヶ浦医療センターの児玉技師長に交代した。

②国臨協関信支部学会学会賞（学術奨励賞、学会特別賞）選考委員の担当地区について

- ・第 43 回国臨協関信支部学会学会賞選考委員の担当地区は、埼玉地区会、東京地区会とする。

③退会届提出のお願い

- ・中途退職者においては、退会届の提出を事務局宛にお願いしたい。

9. 野田専門職の挨拶

10. 閉会の挨拶（金子副支部長）

以上



第4回国臨協関信支部主催研修会『超音波研修会』に参加して



NHO西新潟中央病院
内 藤 真由美

平成26年12月13日(土) 国立国際医療研究センター病院において第4回国臨協関信支部主催研修会『超音波研修会』が開催され、参加いたしました。

当日の新潟は例年以上の雪で、新幹線も遅れており、まず会場につけるのが心配でしたが、新潟県と群馬県の県境にある大清水トンネルを過ぎてからは穏やかな天候で無事に会場に着くことができました。

研修会前半は国立国際医療研究センター病院の前島先生より「基礎分野」として超音波の特性や装置の基礎、ドプラ法、アーチファクトなどについてご講義いただきました。苦手な基礎分野ですが、沢山の法則や数式も基本を覚えれば応用が出来るという事を学ばせていただきました。そして今まで解りにくく疎かにしてしまいがちだった受信信号処理や音響的安全性も理解することができ、これからの勉強で押さえておくべき具体的な重要点を知ることができました。

後半は「循環器分野」「腹部分野」に分かれての講義でしたが、私は現在主に携わっている「循環器分野」を受講しました。循環器分野の国立国際医療研究センター植松先生のご講義は問題形式で行われ、解説では実際の画像(動画)やシエマなどを使う事で、とても丁寧に解りやすく説明していただきました。私自身まだ経験していない先天性症例なども今回勉強することができ、これからの検査にも役立てていきたいと思いました。

今回の研修会に参加し「どうして?」「なぜ?」といつも思っ

ていた疑問点を少しずつですが理解する事ができ、超音波検査士認定試験の受験に対しても今まで以上に意欲的になることができました。

最後になりましたが、今回の研修会を企画・運営してくださいました国臨協関信支部役員の皆様、ならびにご多忙中に御講義いただいた講師の先生方に感謝申し上げます。



第34回関信支部新潟地区定期総会・研修会に参加して



NHOさいがた医療センター
保 田 剛 史

平成26年11月8日(土) 新潟病院において第34回国臨協関信支部新潟地区定期総会・研修会が開催されました。

当日は地区会員22名の参加と、来賓として野田専門職、国臨協関信支部から峰岸支

部長、平原理事にご臨席を賜りました。

研修会は、医療法人仁和会 聖園病院 循環器内科の田村 真先生をお迎えして「心電図の見方・考え方」についてご講演を頂きました。心電図の電気の興奮から心疾患の特徴的波形まで興味深い内容でした。なかでもBrugada症候群の波形の特徴について心内膜と心外膜の興奮時間の違いや心室筋の興奮のばらつきなどをわかりやすく解説して頂き、新人の私にとっても理解できる内容でした。

次に野田専門職から「今 臨床検査部門に求められること」と題して、臨床検査部門の課題、認定資格取得に向けての取り組み、主任技師候補者選考等についてご講演頂きました。私はまだ新人ですが、積極的に目標を持ち自らのレベルアップに向けチャレンジしていこうと思いました。

定期総会では水島会長の挨拶に続いて、来賓の峰岸支部長の挨拶、平原理事からは関信支部の活動報告をして頂きました。引き続き新潟病院の山田副技師長が議長に選出され、平成25年度経過報告、平成26年度議案審議がすべて承認されました。その後、懇親会場へと場所を移し親睦を深めるひと時を過ごしました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演頂きました田村先生、野田専門職、ならびにご臨席を賜りました峰岸支部長、平原理事に感謝申し上げます。

平成26年度関信支部新潟地区役員

会 長	水 島 美津子	(NHO西新潟中央病院)
副 会 長	山 田 大 助	(NHO新潟病院)
理 事	古 賀 裕	(NHOさいがた医療センター)
理 事	内 藤 真由美	(NHO西新潟中央病院)
会計監査	柳 田 光 利	(NHO新潟病院)



関信支部栃木地区会定期総会・研修会に参加して



NHO栃木医療センター

矢崎 晴 識

平成26年11月29日（土）栃木県総合文化センターにおいて、第37回国臨協関信支部栃木地区会定期総会及び研修会が行なわれました。当日はあいにくの悪天候でしたが多数の会員参加のもと、来賓として

野田臨床検査専門職、関信支部より後藤事務局長、学術の長井理事の出席を賜りました。総会は稲葉会長の挨拶に始まり平成25年度経過報告、平成26年度事業方針（案）ならびに、新役員について審議され会員の承認をもって無事終了しました。その後、国臨協関信支部からの活動報告を聴講し、研修会ではアークレイマーケティング株式会社の横井先生による「HbA1c測定に影響を与える因子～変異ヘモグロビンについて」、東洋紡株式会社の藤本先生による画像解析を原理とした「尿中有形成成分について」を講演いただきました。

また、特別講演として野田臨床検査専門職から「今、臨床検査部門に求められること」と題し、臨床検査技師の現状と将来におけるあり方、各種認定資格の取得状況や主任選考試験、採用試験などを含めた内容を詳細にわかりやすく説明して頂きました。その中でも検査技師法が改正となり指定の研修を受講すれば一部の検体採取業務が行なえるようになるというニュースは臨床検査技師のニーズの拡大、地位の向上にもつながると考えられ印象的でした。

総会、研修会終了後は栃木県庁の最上階にて懇親会が行なわれ会員の親睦をより一層深めることができました。最後になりますが、大変お忙しい中、ご出席頂きました野田臨床検査専門職、後藤事務局長、長井理事に心より御礼申し上げます。

平成26年度関信支部栃木地区会役員

会 長：鈴木 喜久雄（NHO宇都宮病院）
事務局長：古 谷 能 祥（NHO栃木医療センター）
理 事：渡 邊 貞 澄（NHO栃木医療センター）
理 事：小 川 佳 亮（NHO宇都宮病院）
会計監査：星 功 晴（NHO栃木医療センター）
会計監査：古 川 政 雄（NHO宇都宮病院）



関信支部千葉地区会研修会に参加して



NHO千葉東病院

八木 翔 吾

平成26年11月29日（土）、NHO千葉医療センターにおいて平成26年度国臨協関信支部千葉地区会第2回研修会が開催されました。当日はあいにくの天候ではありましたが、39名の会員の参加がありました。

学術講演では昨年度まで国立病院機構で長年に渡りご活躍をされ、現在はつくば国際大学医療保健学部臨床検査学科教授の當銘先生をお迎えし、「国立医療機関を離れて想うこと」と題しましてご講演をして頂きました。臨床検査技師になったきっかけや細胞診を勉強するきっかけについてから始まり、認定資格取得のコツ、後輩をどのように指導してきたか、教授になってから想うことなどと幅広い内容でした。その中で當銘先生は「NHOはとても恵まれている。」と仰っていました。後輩への細胞診取得の指導の際に、他施設から自施設へ後輩を招いて勤務終了後に指導をされていたお話を聞いて、私もNHOは恵まれていると思いました。こういった施設間での繋がりや団結力の強さ、多数の研修や学会が設けられている環境は特に私のような新人技師にとってはとても心強く感じます。今後とも検査技術の研鑽に励むべく、積極的に学会や研修会に参加して行こうと改めて思いました。また、具体的な実例やその時の心情を元とした経験談を聞いて大変勉強になりました。

研修会終了後には場所を移して懇親会が行われました。和やかな雰囲気なかで楽しい時間を過ごし、他施設の会員の

方々とも親睦を深めることができました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演をくださいました當銘先生をはじめ、研修会を企画・開催してくださいました千葉地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。



第1回関信支部東京・山梨地区会定期総会を終えて



NHO村山医療センター
堀 内 久 実

平成26年12月6日(土)、国立国際医療研究センター国際医療協力局5階大会議室において第1回国臨協関信支部東京・山梨地区会定期総会が開催されました。会員85名の参加に加え、来賓として野田専門職、関信支部からは峰岸支部長、山崎理事にご臨席を賜りました。

南雲会長の挨拶に始まり、来賓の関信支部峰岸支部長にはご挨拶を、山崎理事には支部の活動状況および今後の予定について報告していただきました。続いて東京・山梨地区会発足の経過報告が行われ、議長に選出された東京医療センターの山崎副技師長の進行で平成26年度事業方針案、予算案、会則案が審議、承認されました。引き続き地区会役員が選出され、南雲会長より挨拶があり無事に終了しました。

地区会もまして私にとって初めての理事ということで緊張していましたが、同理事の方をはじめ多くの方々に助けて頂きながら安心して総会を迎えることができました。総会を終えて地

区会発足となりましたが、ここからが東京・山梨地区会1年目となります。総会の中で南雲会長より「関信支部地区会というより身近な情報を共有できる場を利用して、皆で考え発展させていきましょう。」などのお話があり、南雲会長のもと盛り立てていきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演・ご臨席を賜りました小松臨床検査専門職、野田臨床検査専門職、峰岸支部長、山崎理事にこの場をお借りし心より御礼申し上げます。

平成26年度関信支部東京・山梨地区会役員

会 長：南 雲 功 (NHO甲府病院)
事務局長：小 沼 進 吉 (NHO甲府病院)
理 事：樋 口 晶 子 (NHO東京医療センター)
理 事：堀 内 久 美 (NHO村山医療センター)
理 事：小松崎 正 博 (国立成育医療研究センター)
理 事：前 島 基 志 (国立国際医療研究センター病院)
理 事：羽 深 信 哉 (NHO甲府病院)
会計監査：立 川 康 則 (国立成育医療研究センター)
会計監査：目 崎 和 久 (国立国際医療研究センター病院)



第1回関信支部東京・山梨地区会研修会に参加して



国立成育医療研究センター
初 山 好 陽

平成26年12月6日(土)、国立国際医療研究センター病院において第1回国臨協関信支部東京・山梨地区会総会及び研修会が開催され82名の参加がありました。今回が東京・山梨地区会として初めての総会・研修会であり各施設から多くの方が参加され、この会に対する関心と期待の高さが伺えました。

研修会では、国立病院機構関東信越グループ臨床検査専門職 野田 岳先生、国立病院機構本部臨床検査専門職 小松 和典先生にもご出席を賜り、初めに野田専門職から「今、臨床検査部門に求められること」という演題でご講演していただきました。専門職としての方向性から始まり、国立病院機構の概要と役割、今後の人事について、関信グループの取り組み、検査部門における今ある現状と課題についてお話しされ、「自分を変えれば他人も変わる。他人が変われば組織が変わる。すべては人」とのお言葉に身の引き締まる思いがしました。ま

た、小松専門職からはご自身の経験を活かして「臨床検査技師のよもやま話」と題して講演いただきました。内容は日本医師会の精度管理調査、認定取得の実態調査や医療安全対策、治験の話と多岐に渡り、専門職業務がどのような形で検査技師と関わるかをわかりやすくお話しいただきました。またこの講演にて国立機構本部臨床検査専門職はどのような業務を行っているかを知ることができ、他人に信頼され必要とされるような検査技師に成るように自分自身を変えて行くことの必要性を強く感じました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演していただきました野田専門職、小松専門職を始め研修会を企画開催していただきました東京・山梨地区会役員の皆様に深く御礼申し上げます。



平成26年度国臨協関信支部主催症例検討会に参加して



国立国際医療研究センター病院
木 村 早 希

平成27年2月7日（土）にNHO東京医療センターにおいて、国臨協関信支部主催症例検討会が開催されました。今回の担当施設はNHO千葉東病院で、症例は「腓腎同時移植と腎移植」がテーマとなっており、生化学から尿沈渣、超音波まで多くの検査データが提示されていました。現在、私は生理検査を担当していますので超音波の血流波形から症例に挑もうと思い、自施設の事前勉強会にも積極的に取り組みましたが、はじめて見聞きする内容に疑問点も多く、症例検討会当日を楽しみにしていました。

第1部は中島主任の司会で、関主任と菅野主任が症例の解説を担当され、ポリオマウイルス感染が移植腎機能に影響したことが判明し、私たちの答えと一致しました。超音波検査による移植腎の経過観察3症例では中島主任が解説を担当され、血流波形の変化から移植腎機能を捉えることの奥深さを感じました。

第2部は林技師長の司会で、前半は石川技師に「移植医療とHLA検査」、また斉藤技師には「腓島移植」と題してご講演いただき、ヒトの免疫応答の仕組みの大切さとHLA検査の重要性、および腓島移植の治療効果について理解を深めることができました。後半は、北村博司先生に「腎疾患診療における腎生検の実際」と題して、標本作成から病理診断までを解りやすくご講

演いただきました。腎病理は病変の名称が多数存在するため、同じ病理像でも様々な腎炎や腎症との鑑別が必要であるということと、各種標本作製においても技術的なハードルが高いということなどを理解することができました。

症例検討会を終えて、千葉東病院の強いチームワークを感じました。ご講演いただきました北村博司先生、林技師長をはじめ臨床検査科の皆様にご心より御礼申し上げますとともに、本検討会を主催していただいた国臨協関信支部役員の皆様にも深謝いたします。



ISO15189 : Ver2012移行審査を受審して

国立がん研究センター中央病院 蓮 尾 茂 幸

1月28日、29日の2日間、認定後2回目のサーベイランスを受審しましたので報告します。

今回のサーベイランスは2012版への移行審査も兼ねて行なわれました。受審するにあたり、12月27日までに変更届、品質マニュアル最新版、手順書、外部・内部精度管理結果、精度管理の是正処置記録と多数の資料をJABに提出しました。年が明けたのも束の間、審査チームよりマシンガンのように、追加資料提出の指示があり、結局、審査2週間前まで、この対応に追われていました。

約1日半、品質管理者である私を含めた4名はシステム審査を、各部門では技術審査を要求事項に対して整合性が取れているか確認を受けました。今回は移行審査も含まれていたため、細部に渡り確認を受けました。最終会議の総評では、是正が必要な指摘も受けました

が、「外見はできているので、あとは中身ですね。」という言葉が印象的でした。嬉しい反面、そこが難しい部分だと改めて実感しました。認定維持のためには、文書管理、機器や試薬の変更時の検討など、時間と労力がかかります。また、内部監査、是正処置など、要求事項に則って遂行していくことは、ルーチン業務にプラスαではなく、プラスΩくらい大変だと思います。しかし、当センターのスタッフは、愚痴のひとつも零さず、ISO15189の認定維持のために、日夜、頑張っています。この執筆中は、是正処置の真っ只中です。

ISO15189は認定を取ってから、いかにみんなで協力し、PDCAサイクルをうまく回しながら維持していくことが大切です。最後に、ISO15189認定はより良い検査部、より良い病院を構築していくツールです。認定取得、維持は大変ですが、院内では水戸黄門の印籠のような効果があることを加えておきます。

検体採取等に関する厚生労働省指定講習を受講して



NHO東京医療センター
香 川 成 人

平成27年1月17日（土）～1月18日（日）検体採取等に関する厚生労働省指定講習会が、東京都千代田区の全国町村議会会館で行われ参加する機会を得ました。

この講習会は臨床検査技師等に関する法律の一部が改正され、平成27年4月1日から施行されることに伴い開催されたものです。昨年末から募集が始まりましたが、新年を迎えると都内で開催される会場の申込みが一気に埋まり、大勢の方の関心の高さが伺えました。

講習会は2日間で、朝から夕方まで講義や実技がぎゅぎゅと組まれているため、学ぶことが多くありました。1日目には臨床検査技師法に関する法的知識や微生物学的検査等の検体採取など、2日目は味覚や嗅覚検査に関する講義と実技と受講終了テストがありました。

私は現在、微生物検査を担当していますが、検査室にいと実際に採取現場を見ることがないため、提出された検体がどのように採取するのかを学ぶことができ、とても勉強になりました。また味覚・嗅覚に関しても初めて検査方法を知ることができました。

今後、検体採取の業務が加わることで、臨床検査技師の仕事の幅も広がり少し大変になるかもしれませんが、採血業務と同様、検体採取から報告まで一連の流れが行えるようになり、責任をもって業務が行えると思いました。同時に患者さんとの関わりも増えるため、医療安全などを意識しながら手技をきちんと身につけ、患者対応にもより一層の気配りをしないといけないと強く感じました。

微生物検査の検体採取に関して、これから業務として患者さんから直接検体採取を行うことができますので、その時に備え、しっかり自らのスキルアップに励んでいきたいと思っています。

就 任 挨 拶



厚生労働省 医政局 地域医療計画課
医療関連サービス室長補佐
益 田 泰 蔵

平成27年1月1日付で厚生労働省医政局地域医療計画課医療関連サービス室長補佐に就任いたしました益田泰蔵でございます。今回、本紙面をお借りして皆様に就任のご挨拶をさせていただく機会を得ましたこと、心より感謝いたします。今までは患者さんのために臨床検査技師として精進して参りましたが、医療現場を一時離れて、事務官として厚生労働行政に携わることとなりました。当室は臨床検査技

師等の法律に関連する業務のみならず、病院等における業務委託や経営管理の改善に関する事業の指導に関すること等を所掌業務としており、今までの臨床検査業務とは異なった仕事でもあり不安の中でのスタートとなりました。しかし、この職に就任した以上は、微力ではありますが、社会や医療を取り巻く状況が刻々と変化していく中で臨床検査技師として誠心誠意職務に専念する覚悟でございます。何卒会員の皆様のご協力と温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

機構本部臨床検査専門職交代等のお知らせ

異動内容	新施設名	氏 名	新 職 名	旧施設名	旧職名
併任解除		小 松 和 典		機構本部 医療部医療課	臨床検査専門職
併 任	機構本部 医療部医療課	上 條 敏 夫	臨床検査専門職		
出 向	厚生労働省医政局 地域医療計画課 医療関連サービス室	益 田 泰 蔵	室 長 補 佐	西 埼 玉 中 央 病 院	副 技 師 長

国臨協関信支部今後の予定

月	日	曜日	事 務 局	学 術 部	支部行事	そ の 他
4 月	18 日	土曜日	第43回国臨協関信支部定期総会	第 1 回国臨協関信支部主催研修会	合同交流会	
6 月	6 日	土曜日		第 2 回国臨協関信支部主催研修会		茨城地区会総会
	27 日	土曜日				長野地区会総会
7 月	4 日	土曜日				千葉地区会総会
	11 日	土曜日		第 3 回国臨協関信支部主催研修会	ビアパーティー	

* 予定は変更となる場合がありますのでご了承願います。

第43回国臨協関信支部学会 演題募集のお知らせ

演題名のみでの申し込みは出来ません。抄録提出により演題登録をおこないます。

- 抄録原稿の作成・送付について
E-mailにより抄録原稿を送付してください。
抄録原稿の作成方法については、国臨協関信支部ホームページを参照してください。
<http://kanshinshibu.org/>
- 抄録原稿締め切り期日
平成27年5月22日（金）必着
※演題の採否については、学会長に一任してください。
- 抄録原稿送付先
国立病院機構 横浜医療センター 臨床検査科 長井俊道
E-mail : nagai-toshimichi@yokohamamc.jp
T E L : 045-851-3902 P H S : 8344



新人セッションを企画いたします。5年以下の技師の方で、このセッションでの発表を希望される場合は、その旨ご連絡ください。

人 事 異 動

【平成26年10月31日付 辞 職】

氏 名	施 設 名	職 名
今 井 達 也	国立療養所多磨全生園	主任技師

【平成26年12月31日付 辞 職】

氏 名	施 設 名	職 名
高 山 房 男	水 戸 医 療 セ ン タ ー	主任技師
上 野 将 臣	沼 田 病 院	技 師
中 島 菜 穂 子	下 志 津 病 院	技 師
佐 藤 晴 菜	国立国際医療研究センター病院	技 師

【平成27年1月1日付 昇 任】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
沼 田 正 男	西埼玉中央病院	副技師長	埼 玉 病 院	主任技師
谷 岡 健 作	水戸医療センター	主任技師	国立がん研究センター中央病院	技 師
柳 進 也	埼 玉 病 院	主任技師	国立がん研究センター東病院	技 師

【平成27年1月1日付 配置換え】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
田 原 彩 華	下 志 津 病 院	技 師	熊本医療センター	技 師

【平成27年1月1日付 採 用】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
笹 沼 美 香	国立がん研究センター東病院	技 師	東京医療センター	非常勤
瀧 澤 幸 也	沼 田 病 院	技 師	新 潟 病 院	臨時任用

編 集 後 記 寒かった冬も終わり、いつの間にか桜の時期になりました。すでに葉桜の地域もあると思いますが、関信支部会員の皆様は花見に行かれたでしょうか。人事異動された方の中には異動前に花見をしたが、開花時期のずれにより異動後も花見をしたというラッキーな方もいると思います。緊張の中、新たな気持ちで勤務されていると思いますが、その施設や土地、地域に早く順応していただければと思います。また、新しい施設でみつけた情報などは是非とも関信支部ニュースへ投稿願います。 広報部 金子 司

原稿・写真 大募集!



趣味を通じて盛り上がりましょう！
という企画で原稿・写真を募集します。
奮ってご応募ください！！

・宛先
NHO神奈川病院 研究検査科 山崎直樹
E-mail : n-yamaza@hosp.go.jp

覚えよう

身につけよう

検査技術!

脱脂・脱灰について

NHO千葉医療センター 山 田 晶

はじめに

ブロック作製においては、十分に固定した材料を包埋装置にかけるが、脂肪を多く含む組織や骨組織などは、脱脂や脱灰操作を事前に行う必要がある。今回は、検査室で良く使用されている試薬を用い、その操作法を概説する。

1. 脱脂

このような経験はないだろうか？（図1）



図1 脱脂不足の標本は薄切後に水槽に浮かせた段階や、進展させるとバラバラになってしまう。

少量の脂肪組織は包埋過程のエタノールやキシレンで脱脂が行われている。しかし乳腺組織や脂肪腫などの脂肪成分を多く含む組織はパラフィンが十分に浸透出来ず、薄切が困難なばかりでなく伸展時に切片がバラバラになってしまう。このような標本にならないために脱脂操作を行う必要性がある。

脱脂には有機溶剤が使用される。検査室ではエタノール、メタノール、キシレン、クロロホルム、アルコール系とキシレンやクロロホルムとの混合液などが用いられている。

エタノール、メタノールは脂肪の溶出量は少なく、次いでキシレン、クロロホルム、キシレン混合液、クロロホルム混合液の順に溶出量が多かった。2時間後ではキシレン混合液とクロロホルム混合液との差はあまりみられなかった。（図2）

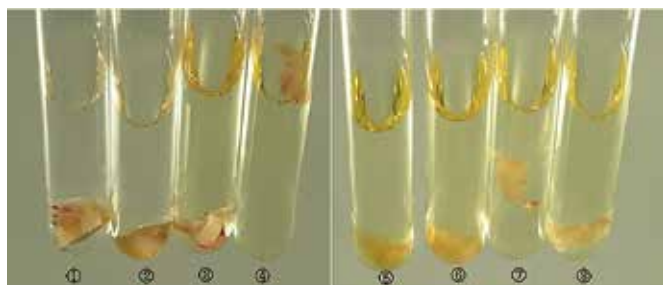


図2 ①～⑧の各溶液に脂肪組織を入れ攪拌しながら2時間脱脂の溶出状態

	1 時間後	2 時間後
①エタノール	ほとんど溶出なし	ほとんど溶出なし
②メタノール	ほとんど溶出なし	ほとんど溶出なし
③キシレン	ほとんど溶出なし	若干溶出
④クロロホルム	ほとんど溶出なし	若干溶出
⑤エタ・キシ混合液	若干溶出	溶出あり
⑥メタ・キシ混合液	若干溶出	溶出あり
⑦エタ・クロ混合液	溶出あり	溶出あり
⑧メタ・クロ混合液	溶出あり	溶出あり

組織は適切な大きさに切り出し、またエタノールによる脱水操作も重要である。（図3）

①・②はサンプリング過多で隙間なく切り出し、③・④は適度の隙間を持たせている。また②・④は4時間の脱水操作を行っている。2時間脱脂後（エタ・キシ混合液）では①～③は脱脂不十分で黄色い脂肪組織が残っているが、④は組織に透明感があり脱脂が完了していることがわかる。ブロックに隙間なく組織を詰めることで脱脂液の浸透が悪く脱脂効果が低下する。したがって脱脂液に入れる前には必ずエタノールに2～4時間攪拌しながら入れ脱水操作を行うことにより良好な脱脂効果が得られる。

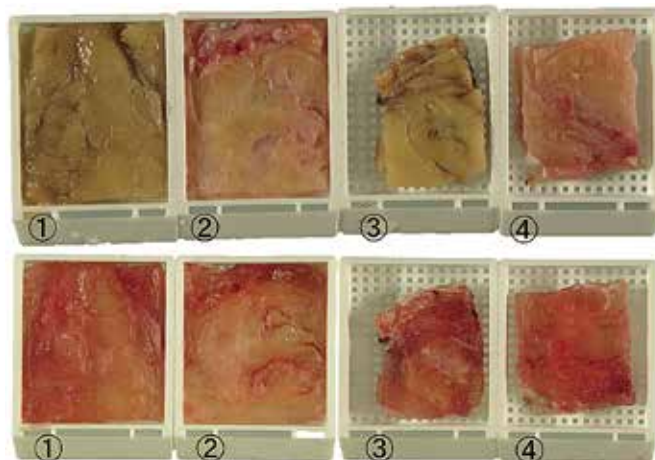


図3 上段は脱脂前のサンプリング大きさの違いや脱水の有無のブロック。下段は2時間後の脱脂状況である。④以外は黄色い脂肪が残り脱脂が完了していない。

2. 脱灰

組織標本をミクロトームで薄切する時、その組織に石灰を含む硬組織が含まれていると刃こぼれを起こし良好な標本作成が出来ない。こうした組織を薄切できる硬さにする必要がある。脱灰法は種々あるが今回は、強酸性（塩酸）・中性（EDTA）・迅速脱灰液（プランク・リュクロ）の脱灰液で染色性を比べてみた。強酸性の脱灰液は、プランク・リュクロ同様に迅速な脱灰が可能であるが、染色性に影響を及ぼす。中性の脱灰液は組織への損傷が少なく染色性も良好だが脱灰に長時間を要する。

脱灰は塩酸やプランク・リュクロだと椎骨3～4時間で、EDTAだと1～2日で完了する。脱灰液は組織1gに対し50～100mL以上使用し、1日2回は液交換することが望ましい。カルシウムは下層に沈殿し脱灰効果を下げるので糸等で吊るし攪拌しながら脱灰する。（図4）

骨成分に含まれる脂肪が脱灰を妨げるため、脱灰液に入れる前に必ず脱脂を行う。酸性脱灰液は炭酸ガスが発生するため蓋で密閉しない。また、酸性脱灰液を使用した場合は組織の膨化を防ぐために中和剤として硫酸リチウムや硫酸ナトリウムに半日程度浸す必要がある。

図4 十分量の脱灰液を使用する。

染色性はEDTAが良好な染色性を呈しているが、塩酸およびプランク・リュクロは核の染色性がエオジン好性を呈している。（図5）

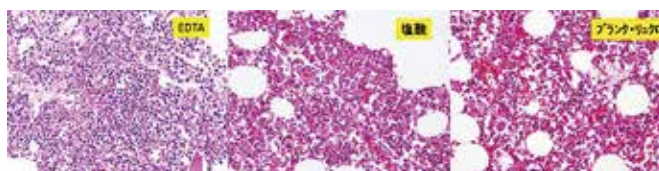


図5 塩酸ではヘマトキシリンの染色性がEDTAと比べ著しく低下している。プランク・リュクロも塩酸ほどではないが低下している。

おわりに

脱脂液に用いるクロロホルムは、平成26年11月に特定化学物質に指定されており、検査室の環境に配慮が必要である。自動包埋装置の普及や進歩に伴い、ブロック作製のクオリティが上昇している。しかしながら良質なブロックを作成するには、包埋装置にかける前の固定や脱脂、脱灰が非常に重要である。この操作を怠ると如何に良い機器を使用しても、良好な標本作成が出来ないことを念頭に置いて欲しい。